

アウトソーシングによる特定保健指導の予備的評価（第5報）

～保健指導の質の維持・向上のためのスタッフ研修会の概要と評価～

050

さの よしこ

○佐野喜子（株式会社ニュートリート） 福田洋（順天堂大学医学部総合診療科）

志村真紀子（株式会社保健教育センター）

【背景】

平成20年度より開始された特定保健指導において、対象者の概要やメタボ指標に関する報告は確認できても、より良い指導実施のために不可欠とされる保健指導の質の維持・向上のための対策が報告されているケースはまれである。

【目的】

アウトソーシングでは常勤の専門職が少ないため、保健指導の標準化やレベルアップが難しいとされている。そこで、都内H保健指導機関において平成20-22年度に実施した特定保健指導担当者（看護師・保健師・管理栄養士/H20-782名、H21-1135名、H22-1311名）への研修会の概要と評価を報告する。

【方法】

- ①6か月プログラム修了者への「終了時アンケート」を実施した。
- ②保健指導担当者への「年度事業終了時アンケート」を実施した。
- ③基礎研修（特定保健指導の目的を理解し対象者の主体的な行動目標設定のための手法を学ぶ）H20-21年度は単回/H22年度は3日間、レベルアップ研修（ロールプレイを取り入れ、前年度の課題解決・指導ツールの効果的な活用・成果を出す目標設定スキルの獲得）を実施し、終了時アンケートを検討した。

【結果】

- 1) 6ヶ月で体重減少率5%を達成した群（n=659）は1ヶ月目で2.0%の減少率、体重減少率4%を達成した群（n=832）は同様に1.3%の減少率、体重減少率2%を達成した群（n=1222）は0.7%の減少率であった（H21）。
- 2) 保健指導者（看護師493件・保健師765件・管理栄養士360件）の資格による対象者の体重減少量の差は認めなかった（ $p>0.07$ ）。
- 3) 保険種別による対象者の属性の差異（健保：40-50代男性/国保：7割が60歳以上）が大きい。
- 4) メタボリックシンドローム関連項目で受診勧奨域となる者の割合は1割～4割、当施設で設定した重症域の該当者は4.6%。

5) 障害者、メンタル、重症疾患の既往や合併などの様々なバックグラウンドを持つ対象者が多い。

6) 研修会終了時アンケート・基礎研修（H20-22）では、①健診制度の理解：62.1-75.5-85.9%、②行動目標・行動計画設定の流れの理：57.5-46.9-66.7%、③行動変容や意識改善への自信：図れる50.9-46.9%、指導してみないとわからない41.8-53.1%であった。レベルアップ研修では、①行動目標・行動計画設定の流れの理解：71.0%、②ツールの使い方への自信：76.6%、③行動目標の設定への自信：84%、④行動変容や意識改善への自信：図れる67.3%、指導してみないとわからない25.3%であった。

【考察】

終了時に体重減少率4～5%を達成した対象者は、1ヶ月目で1.3～2.0%の減少率を達成している。このことから、6ヶ月に均一的に体重が減少するのではなく、介入1ヶ月目のトライアルが重要となることが示唆された。そのためには、初回の面接において、対象者にいかに減量行動へのモチベーションを高めるかがカギとなる。専門職といえども、対象者の属性の差異、超重症域の対象者、様々なバックグラウンドを持つMetSの対象者に効果的な保健指導を提供し続けるには限界がある。今後、特定保健指導の成功のためには、これらの対応スタッフ研修等、保健指導の質の維持・向上に創意・工夫を継続的に実施していくことが重要と思われる。

【連絡先】

東京都品川区大崎1-19-13-2508

株式会社 ニュートリート

佐野喜子

TEL 03-3779-2018 FAX 03-3779-2107

E-mail:y_sano@nutriat.co.jp